

見島：火山島

萩の沖合 44km に位置する見島は、日本海が誕生した 200 万年前の火山噴火によって誕生した島だ。この山頂が平らな島には、千年以上前から人が住んでいた。現在では、古代の田んぼや見島牛の産地として知られている。その景観はまさに古代のもので、離島には独特の文化が残っている。

萩城下町：マグマの上に築かれた歴史

海と川に挟まれた萩は、江戸時代（1603～1867）に毛利家によって城下町として発展した。武士たちが誇らしげに闊歩したこの歴史的な町は、渦巻くマグマの上で成長してきた。阿武川と休火山である指月山が作った砂州の上に町が作られた。現代の萩の町並みの下には、火山の過去の秘密が隠されている。

萩往還：古代カルデラを越える道

この街道は、「参勤交代」と呼ばれた、大名が一年おきに江戸（現在の東京）との間を往復するために建設されたものであった。沿道には、大名とその行列のための宿やその他の商売が存在した。しかし、大名たちは、自分たちが歩いた土地が 1 億年前の大爆発でできた土地であることを知らなかった。その道の 2 つ目の停留所である宿場町である佐々並市は、古代のカルデラの真ん中に建てられた。今日、歴史あるこの町並みを歩いていると、かつてここが巨大な火山のカルデラだったなどとは想像し難い。